

県内で赤十字奉仕団が結成され始めたのは昭和24年のことでしたが、当時は自治会や婦人会との二枚看板が多く、人道の実現を体現する「赤十字の奉仕団」という意識は脆弱でした。そんな中、昭和39年に富山市の尚星奉仕団が、昭和42年には丸美奉仕団（現在の高岡南部丸美）がその二枚看板を外し、新たな赤十字奉仕団として生まれ変わりました。

平成27年5月10日、高岡文化ホールにおいて、高岡南部丸美赤十字奉仕団の創立50周年記念式典が行われました。式典には、日赤富山県支部長の石井隆一知事（代理 寺林敏副知事）、日赤高岡市地区区長の高橋正樹市長、衆議院議員の橋慶一郎氏などが来賓として出席され、高岡南部丸美50年の節目を祝いました。また、式典後には、元台湾総統府国策顧問である金美齢さんを講師に、「次代伝えたい 日本心」を演題としたチャリティ講演会が行われ、団員や地域の方などおよそ500人が耳を傾けていました。

高岡南部丸美赤十字奉仕団 創立50周年記念式典



奉仕団とやま

発行
赤十字奉仕団
富山県支部委員会
富山市飯野26-1
日本赤十字社富山県支部内
電話 (076) 451-7878
年1回発行

高岡南部丸美奉仕団は今では県内トップクラスの大所帯ですが、その活動のはじまりは10人の団員でベトナム難民の子どもたちに手作りの子供服を贈ったことでした。それから長い年月をかけ、社会福祉や専門職の団員による海浜救護、災害救護訓練などを通じて地域に根をはり、50年の時を経た今、大きな花を咲かせました。

吉田愛子委員長は、「この50周年記念式典は、丸美だけのものじゃなく、富山県赤十字奉仕団全体の50周年という意義のある式典でした」と、話して下さいました。

これから先の未来にも富山県赤十字奉仕団の活動が続くよう、一丸となって頑張っていきたいと思います。



表彰を受けられた方々
おめでとうございます。
今後益々の活躍を
ご期待申し上げます。
(敬称略)

叙勲

●瑞宝双光章

- 川越 恒豊(富山赤十字災害救援奉仕団)
- 南 弘(四方赤十字奉仕団)

業務功労

●富山県知事表彰(部門功労)

●金色有功章(20年継続)

●銀色有功章(15年継続)

●金梓感謝状(10年継続)

- 南砺市井口赤十字奉仕団
- 立野赤十字奉仕団(高岡市)
- 山谷美津子(中田赤十字奉仕団)(高岡市)
- 富山県立看護専門学校学生赤十字奉仕団(高岡市)
- 竹苗 典子(下村赤十字奉仕団)(射水市)
- 金森 辰美(朝日丘赤十字奉仕団)(氷見市)
- 長井久美子(南砺市福野赤十字奉仕団)
- 岡本 芳子(滑川市赤十字奉仕団)
- 清水 晴乃(宇奈月赤十字奉仕団)(黒部市)
- 町田スヅエ(大沢野赤十字奉仕団)(富山市)
- 田辺 恵子(高岡中央赤十字奉仕団)
- 廣田 律子(魚津市赤十字奉仕団)
- 石原千恵子(立山町赤十字奉仕団)
- 小林 福治(富山県青少年赤十字賛助奉仕団)

社資功労

●紺綬褒章

●日本赤十字社長感謝状

- 上田 辰夫(高岡中央赤十字奉仕団)
- 上田 辰夫(高岡中央赤十字奉仕団)
- 上田産業(株)(高岡中央赤十字奉仕団)
- 塩谷建設(株)(高岡中央赤十字奉仕団)
- 高岡南部丸美赤十字奉仕団

●金色有功章

- 木澤 覚(射水市大島赤十字奉仕団)
- (三協化成(株)(福岡町赤十字奉仕団)(高岡市)

●銀色有功章

- 松林 富子(南砺市城端赤十字奉仕団)
- 高畑百合子(安野屋赤十字奉仕団)(富山市)
- 竹島由美子(新庄北赤十字奉仕団)(富山市)
- 中島 秀恭(福岡町赤十字奉仕団)(高岡市)
- 宮森 邦子(福岡町赤十字奉仕団)(高岡市)
- 頭川志津子(伏木赤十字奉仕団)(高岡市)
- 北野 重信(伏木赤十字奉仕団)(高岡市)
- 屋敷 良雄(小矢部市赤十字奉仕団)
- 森原 敬喜(高岡中央赤十字奉仕団)
- 蜷川赤十字奉仕団(富山市)

※社資功労につきましては、赤十字奉仕団員並びに奉仕団幹旋の受章者のうち、ご承諾をいただいた方のみ掲載しております。(H27・2・1～H28・1・31)



平成27年度富山県支部扱い義援金・救援金の受付

※金額及び件数は2/29までの累積	
国内	海外
●東日本大震災義援金 132件 3,980,040円	●中東人道危機救援金 7件 60,608円
●長野県神城断層地震災害義援金 17件 292,977円	●2014年西アフリカ エボラ出血熱救援金 7件 67,026円
●屋久島町口永良部島新岳噴火災害義援金 12件 311,610円	●2015年南太平洋サイクロン救援金 3件 49,114円
●平成27年台風第18号等大雨災害義援金 35件 1,600,597円	●2015年ネパール地震救援金 62件 3,667,913円
●平成27年台風第21号与那国町災害義援金 4件 46,899円	●2016年台湾地震救援金 3件 75,036円
	●平成27年度NHK海外たすけあい 714件 4,695,299円
合計	996件 14,847,119円

(郵便振替を利用され、日赤本社や被災地支部に直接送金された分の件数・金額は、この記載に含まれておりません)

平成28年度県支部奉仕団事業計画

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月
赤十字奉仕団とやま編集委員会	赤十字奉仕団支部指導講師研修会(本社)	赤十字奉仕団研修部会役員会(支部)	赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会(支部)	赤十字奉仕団第三B委員長会議(長野)	赤十字奉仕団第三B委員長会議(立山)	NHK海外たすけあい	赤十字奉仕団とやま編集委員会	赤十字奉仕団支部指導講師研修会(本社)	赤十字奉仕団研修部会役員会(支部)	赤十字奉仕団富山県支部委員会常任委員会(支部)	赤十字奉仕団第三B委員長会議(長野)
赤十字奉仕団とやま(第32号)発行											

*第三B(第三ブロック)：富山・石川・福井・岐阜・長野・愛知・静岡・三重 8県で構成



例年になく暖かい年末年始を過ごし何か物足りなさも感じていたところへドカンと降りました。大雪のために血液の調達が困難な県があるとのニュース報道もされ、早く解消されることを願うばかりです。

さて、そんな中、年度末を控え、赤十字奉仕団とやま第31号の編集作業に加わらせていただきました。支部事務局の移転、岡崎委員長の就任や高岡南部丸美奉仕団の50周年、惣万佳代子さんのナイチンゲール記章受章など大きな出来事がたくさんあった年でした。新たな事務所に初めて足を運び、備蓄倉庫や血液センター内を見学できたことも貴重な経験となりました。発行にあたり、ご寄稿いただきました皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。(野原記)

編集委員
岡崎 智子 廣田 律子
松林 富子 辻本 瑠子
森田 敬子 高柳貴美枝
野原 恵子 前田 邦子
高原 安晴 塚本亜由美

赤十字奉仕団富山県支部 委員会委員長として



岡崎 智子
平成27年4月から
赤十字奉仕団富山県
支部委員会の委員長
にご推挙いただき、

間もなく一年を迎えます。重責に身の引き締まる思いをいたしております。皆様の温かいご指導・ご協力を賜りながら責務を全うしたいと思っております。

昨年末、病院と隣接していた富山県支部庁舎が血液センターに移転され、これからは私たちの活動の拠点として大いに活用できることを大変嬉しく思っております。

日頃は日赤県支部や日赤地区区分と連携を図りながら、地域のニーズに合った赤十字奉仕団活動を積極的に推進していただいておりますこと厚くお礼申し上げます。

本県では、全国に先駆けて富山県赤十字奉仕団は六つの統一活動を実施しております。

- 一、80才以上在宅ひとり暮らし高齢者訪問活動
- 二、社資募集及び赤十字思想の普及
- 三、災害時における救援活動
- 四、献血推進活動
- 五、NHK海外たすけあい募集

研修旅行記

日赤本社訪問と東京方面の研修旅行

南砺市城端赤十字奉仕団
委員長 松林 富子

6月10日、晴の朝。富山駅に42名が集まりました。開業もない北陸新幹線かがやきに乗車です。快適さと速さは期待通り。今年、話題性が大きかった東京駅に到着。手配されたバスで「シエフズ・ライブ・キッチン」に移動してお腹を満たし、午後の日本赤十字社訪問に備えます。本社は、一度は訪問したいと願っていた所でした。



世界の赤十字の、日本での拠点であり、明治十年に博愛社としてスタートしてからちょうど創立百周年の昭和五十二年に黒川紀章氏の設計によって建てられました。赤十字社の役割から推測して大きな敷地を想像していましたが、ややコンパクトな外観。しかし、案内された内部

六、赤十字講習の受講・普及
各団がこれらの共通活動を始めとした、地域に根差した活動に取り組んでいます。また、私たち赤十字奉仕団は、赤十字の理解者であり、協力者です。活動の際に赤十字マークの入ったエプロン・三角巾を身に付けていること、これはすなわち皆さんが赤十字の広報マンでもあるということです。赤十字奉仕団は、赤十字から期待される存在であることを心に刻み、活動に取り組んでいただきたいと思います。

最後に、情熱なくして良い活動は出来ません。そして、赤十字奉仕団は「行動すること」が必要だと思います。今日から情熱をもって行動いたしましょう。

赤十字奉仕団結成状況

全 国	地域赤十字奉仕団	2,147団	1,242,884人
	青年赤十字奉仕団	158団	7,263人
	特殊赤十字奉仕団	654団	35,488人
	計	2,959団	1,285,635人
富山県	地域赤十字奉仕団	54団	3,818人
	青年赤十字奉仕団	3団	99人
	特殊赤十字奉仕団	7団	182人
	計	64団	4,099人

赤十字奉仕団富山県支部委員会の役員(常任委員)を紹介します (平成27~28年度)

委員長 1. 岡崎 智子 2. 八尾町赤十字奉仕団 委員長 3. 富山地区 4. 地域の各種団体の方々との顔見知りとなり、お互いに協力し、活動の輪が広がっていることです。	副委員長 1. 山谷美津子 2. 中田赤十字奉仕団 委員長 3. 高岡地区 4. 火災発生時、すぐに炊き出しを実施し、対応できたことと、欧州視察研修旅行で「赤十字」を多く見聞きできたことと。	副委員長 1. 廣田 律子 2. 魚津市赤十字奉仕団 委員長 3. 新川地区 4. 日本赤十字社本社に訪問できたことと。人と人の関わり感謝しています。	副委員長 1. 松林 富子 2. 南砺市城端赤十字奉仕団 委員長 3. 砺波地区 4. 平成23年に県支部主催の欧州視察研修旅行で赤十字発祥の各地で学べたことが印象深いことです。	副委員長 1. 髙村 浩之 2. 富山県アマチュア無線赤十字奉仕団 委員長 3. 特殊地区 4. 富山県総合防災訓練などで普段駐車できない場所に車を乗り入れて、通信訓練を行えることと。
常任委員 1. 土肥 靖子 2. 新庄北赤十字奉仕団 委員長 3. 富山地区 4. 赤十字ボランティアリーダー研修会に参加でき、全国の団員の方々と意見交換できたことと。	常任委員 1. 辻本 靖子 2. 東赤十字奉仕団 委員長 3. 高岡地区 4. 赤十字の原点であるジュネーブやソルフェリーノを訪ねられたことと。	常任委員 1. 深川 紀子 2. 上市町赤十字奉仕団 委員長 3. 新川地区 4. 施設訪問で入所者の方と一緒に作業やゲームをし、笑顔でありがとうと喜ばれたことと。	常任委員 1. 武田東洋子 2. 南砺市井波赤十字奉仕団 委員長 3. 砺波地区 4. 東日本大震災が発生した時、街頭募金を行ったことと。日本中に被災地への想いがつまったと感じました。	1. 氏名 2. 所属団と役職 3. 選出地域 4. 奉仕団員になって最も印象深かったこと

は赤十字に関わりを持つ私たちにとっては、心の拠り所となり得るものでした。宿泊の帝国ホテルも思い出に残るものでした。二日目は明治神宮参拝。明治天皇と昭憲皇太后がお祀りされています。昭憲皇太后基金がスイス本部で貴重な世界救済基金となっていることを学んでいたことに重なり、胸の熱くなる思いでした。鳩山会館の見学では日本の戦後政治の歴史の一端を垣間見ることができ、充実した二日間の研修旅行となりました。

平成二十八年度の研修旅行ご案内

詳細・募集は、後日各委員長あてにご連絡いたします。

城崎温泉と竹田城 (兵庫県)

平成28年10月13日(木)~14日(金)

1日目	富山・高岡 — バス — 小矢部川SAで合流 — 小浜で昼食 — 舞鶴引揚記念館 — 天橋立 — 城崎温泉
2日目	旅館 — 竹田城 — 竹田城付近で昼食 — バス — 富山・高岡

ボランティア保険について

日赤県支部が加入しているボランティア保険について、お知らせします。不慮の事故(大小に関わらず)の際は、所属奉仕団委員長を通じ、市町村の日赤担当者へ報告して下さい。

- 保障内容
 - ・他者への賠償金 5億円
 - ・自身の傷害 死亡・後遺障害 1,254万円
 - ・入院一日ごと 6,300円
 - ・通院一日ごと 4,200円
- 保障となる活動
 - ・日本国内における奉仕団活動
 - ・(所属奉仕団及び日赤県支部が認めるもの)

※会議や研修会も含まれます。海難、山岳救助活動は対象となりません。※県支部が加入しているボランティア保険は、最低限のものです。市町村窓口との二重掛けをお願いします。

平成28年度に 周年記念を迎える奉仕団

- 一 赤十字奉仕活動を地域に根付かせたご苦労を思い、後輩につなげていくことを願いながら、節目の年を皆でお祝いいたします。
- 二 四〇周年 朝日町赤十字奉仕団
- 三 三〇周年 伏木赤十字奉仕団
- 四 二〇周年 安野屋赤十字奉仕団
- 五 新湊中央赤十字奉仕団

吉田風沙さん

おめでとうございます！

先に開催されました「赤十字7原則エッセイコンテスト」で、富山赤十字看護学生奉仕団の吉田風沙さんがポエム・ツイートコースで学生賞を受賞されました。

これは、赤十字基本原則採択50周年を記念して開催されたもので、応募総数244作品の中から、富山県関係者としては2名の作品が選出されました。この紙面では、同じ奉仕団員である吉田さんの作品を掲載し、受賞の喜びを共有したいと思います。

沢山のあなたへ

私の耳は、あなたの想いを聞くために
私の目は、あなたのことを見つめるために
私の声は、あなたを元気にするために
私の手は、あなたと手を取りあうために
私の足は、あなたの元へすぐに駆けつけるために
私の心は、沢山のあなたを助けたと思う。

支部職員を紹介します

1. 氏名 2. 主な担当 3. 趣味
4. 奉仕団のみなさんに向けて一言

事務局長

1. 新川
2. 富山県の赤十字に関することすべて
3. 乱読
4. 奉仕団のみなさんには、地域の二足を踏まえ、無理せず、継続できる活動を期待しています。

事業推進課

事業推進課長

1. 坂井
2. 事業推進課に関することすべて
3. バイクツーリング
4. 人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり。

事業推進係長

1. 林
2. 災害救護、講習(救急法、水上安全法)、事業推進課に関することすべて
3. 読書、ワイン
4. 様々な場面で赤十字奉仕団の皆さんと一緒できることを楽しみにしています。

看護主任

1. 橋本
2. 災害救護、講習(幼児安全法、健康生活支援)
3. ショッピング、温泉
4. 笑顔を絶やさず、何事にもチャレンジ精神で頑張っていきたいです。

主事

1. 清水
2. 青少年赤十字、義援金・救援金
3. 音楽を聴くこと
4. 海外たすけあいなど毎年ご協力いただきありがとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします。

総務課

事務局付部長

1. 髙原
2. 総務課に関することすべて
3. 野球
4. 組織の輪を大切に

総務係長

1. 富澤
2. 有功会、総務課に関することすべて
3. 映画鑑賞
4. 地域での活動、赤十字のPRにご協力いただきありがとうございます。

主事

1. 塚本
2. 奉仕団、広報
3. テニス、旅行
4. 明るく元気に毎日笑顔で頑張ります！

主事

1. 池口
2. 社員、表彰
3. 早起き、オタク趣味全般
4. 精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします！

主事

1. 森澤
2. 会計
3. 映画鑑賞
4. いつも赤十字にご支援いただきありがとうございます。



昨年発行の「赤十字奉仕団とやま第30号」でもご案内させていただきましたが、富山県支部は移転し、平成27年11月24日(火)から、下記において業務を開始しております。

支部事務室などは富山県赤十字血液センターの2階に入居し、支部移転に伴って同じ敷地内には富山県災害救護物資備蓄倉庫が移転新築されました。この倉庫には県と日本赤十字社の救護物資を保管しており、県広域消防防災センター(富山市惣在寺)に次ぐ、災害支援の中核拠点です。

富山県支部が移転しました

日本赤十字社富山県支部

住所 〒930-0821富山市飯野26-1
電話 076-451-7878 / F A X 076-451-6872

[庁舎内]

- 2階 支部事務局(総務課、事業推進課、奉仕団室) 血液センター
- 1階 会議室、血液センター
- 3階 会議室、血液センター事務局

[別棟倉庫]

- 1階 車庫(災害救援車)、救護装備品(炊き出し用炊飯器)、講習資材
- 2階 救援物資(赤十字:毛布、緊急セット、安眠セット等)(富山県:寝袋、乾パン等)



《我が団の紹介》

婦中赤十字奉仕団(富山市)の活動

委員長 高柳 貴美枝

富山市と合併して十年の節目を迎えました。人口は、3万人を超える大きな町になりました。奉仕団は昭和52年9月に発足し、今日に至ります。私が入団した頃は30名弱の団員でしたが、現在は55名になり、少しずつ若い人たちも入っていただき、活動には支障がありません。委員長を受けたときは30年変わらない活動でしたが、徐々に多面から声を掛けられるようになりました。

献血活動は年3回ファボールで協力。奉仕活動は継続の病院訪問。新たに老人福祉施設からの依頼で買い物ボランティア2回と夏祭りなどに参加しています。婦中社会福祉協議会に属し、年4回協力しています。秋と冬の行事では、児童や園児たちと接しています。日本テレビの24時間テレビでは、ファボールで募金活動も手伝っています。今年度には、八尾町奉仕団や大山社会福祉協議会の方たちと交流しました。ひとり暮らし訪問は年3回。手作りのご飯物や蒸しパンなどを県支部から品物に添えてお届けしています。訪問の際には、感謝の言葉をいただき嬉しく思いました。炊き出しは年1回社会福祉協議会の行事で行います。また、警察からの要請で「津波防災の日」の訓練で炊き出しをしました。近年の災害に対する意識をより強くするもので、奉仕団としても協力を惜しまず出されるだけ受けていきたいと思っています。

奉仕団に入り、日本赤十字社の一組織として、多くのことを学び、知識を得たことは、私にとって大きな収穫となりました。



東赤十字奉仕団(氷見市)の活動

委員長 辻 本 璋 子

私たち東奉仕団は、市の中心部に番屋街、商店街などの観光地を抱えた13町内を有する地域で活動しています。婦人会解散の折、団の活動を消してはならないという使命感から40余名で発足しました。結成以来、支部からの行事を忠実にこなしながら活動していますが、団員は徐々に減り、現在は20数名で頑張っています。他団の奉仕団活動とはほとんど変わりありませんが、特筆すべきは、3年間にわたり、ペットボトルのふたの回収箱を地域内のスーパードラッグや公共機関に設置し、それを業者に持参する活動をしていることです。ワクチンに換算し、約1000人分の命のともしびとなったことは、何よりの充実した事業のひとつと自負しています。

また、赤十字の赤いポロシャツを東の制服と捉え、どこかの活動の場でもそれを着用し、赤揃いで頑張っています。5月の赤十字運動月間のPRと海外たすけあいは、まさに赤一色で染まります。団員の研修も毎年様変わりしながら楽しんでいきます。エコバック作りや正月用盆裁、干支の色紙作りなどを通じて団員同士の交流を深め、心ひとつにして地域で生きる自覚が、赤十字の奉仕に繋がると確信しています。



射水市大江赤十字奉仕団の活動

委員長 森 田 敬 子

大江奉仕団は、昭和53年に初代委員長の森サキ子さんの努力により結成され、当時は21名の団員でしたが、今は106名の大所帯となり、活動の輪も大きく広がっています。

普段は、地域にある特別養護老人ホーム「大江苑」を中心に活動しています。一年間の奉仕活動表を作成して団員に配布し活動していますが、内容は、シーツ交換(第1:3月曜、日曜喫茶(第2:4日曜)洗濯物たたみ(第2:4火曜)です。他にも、施設行事である納涼祭、流し素麺、ショッピング介助、ひな祭りの茶会なども手伝っています。団員にも高齢者が多くなってきたので、限られた人数での活動になっています。

また、今年で32年になるひとり暮らし高齢者及び父子家庭への手作り弁当も、小杉小学校のボランティア委員の子どもたちと一緒に5地区に分かれて訪問していますが、みなさんとても楽しみに待っていてくれます。地区の自主防災での炊き出し訓練では、以前は豚汁を作っていましたが、近年はカレーライスに変わり好評です。年一回ですが、講師を招いて健康生活支援講習なども受講しています。毎年2月には、日帰り研修旅行として施設や美術館などを見学し、温泉にも浸かり、親睦を深め和気あいあい楽しんでいきます。

これからも地域に根ざした奉仕団として、活動の輪を広げて行きたいと思っています。



活動推進奉仕団報告

地元に密着した赤十字奉仕団

伏木赤十字奉仕団
委員長 石須 大雄

偉大なる先輩(前山下委員長)の後を受けて2年が過ぎようとしています。細かな改善と重くのしかかる伝統活動の継承があり、団員の皆さんのお蔭で何とかここまでやってこることが出来ました。

その中の一つに、高齢者を大切にす「ひとり暮らし高齢者との集い」があります。重ねて34回目となり、会場も新設した伏木コミュニティセンターで来賓・団員を含め、250余名の参加で実施しました。

笹寿し弁当に手作りの汁ものと漬物、おやつを添え「おもてなしの心」をもってお迎えしました。進行と接待役は団員が分担し、アトラクションは、地元ボランティアの協力を得て、コーラスや日本舞踊で楽しんで頂きました。また、保育園児や児童の民謡踊りや獅子舞の披露、そして客席に降りて一人一人に「いつまでもお元気でね」と声掛けをしたことが、何よりも心の癒しとなり、お喜びにられた事と思います。

重要な活動として、他には海外たすけあい、防災炊き出し訓練、救護班派

遣、施設の除草奉仕など、年間で50余りの事業を計画・実施しています。地元の方々にとって「赤十字奉仕団」が、どのくらい理解されているかが重要な事だと思



ひとり暮らし高齢者との集い

啓蒙活動も大切ながら、たとえ地道な活動であっても「陰の力」となつて奉仕」できる存在でありたいと願っています。

青少年赤十字普及のための働きかけから連携へ

新庄北赤十字奉仕団

委員長 土肥 靖子

私たち奉仕団の活動拠点である新庄北地域に富山第一高校があります。ご記憶の方も多いかと思いますが、2年前サッカーの全国大会で優勝し、地元だけでなく富山県全体に大フィーバーが起きました。その富山第一高校とは、以前から自治振興会の行事の中でお互い連携がありました。

そこで私たちも「青少年赤十字の普

及」をテーマに連携が出来ればと考えました。中川教頭先生を通じ担当の先生と学生を紹介していただき、話し合いの結果、10月に行われる学校の文化祭で、災害時の炊き出し訓練と関東・東北豪雨に対する義援金募集、それとパネルや写真の展示を行うことになりました。学校あげての行事であり、大勢の学生が行き来する中での炊き出しは、効果があったと思っています。

8月5日、顕著な功績があった看護師に与えられる世界最高の荣誉「フロレンス・ナイチンゲール記章」授与式が日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下ご臨席のもと行われ、陛下御手ずから記章が授与されました。



惣方佳代子さんが第45回「フロレンス・ナイチンゲール記章」を受章

学校では、何年も前から全校生徒を対象に献血に協力しています。冬の献血の少ない時期に本当にありがたく思

赤十字国際委員会から発表される同記章は、紛争や災害の被害者に献身的な活動をしたり、創造的・先駆的貢献を果たした看護師などに隔年で贈られています。

いたこと、感謝の年です。現時点で「青少年赤十字」の文字はなくても、いつか、思っています。



病院ボランティア

デイケア「まにま」に参加して

ともしび赤十字奉仕団

委員長 藤井 暁子

ともしび奉仕団は、平成27年3月に30周年を迎え、団員も40名になりました。団員の高齢化と在勤中の方もあり実働数は半数ですが、団員が多いというところは強い味方だと勇気づけられます。そして、団員が増えたことだし、何か他にも私たちにできるボランティアがないかと模索していました。

超高齢社会を迎え、病院では後期高齢者の入院割合が増えています。患者さんにとって入院は突然、住み慣れた自宅を離れるということ。病院での生活は恐怖と不安、孤独感が心身を襲います。そして、一気に認知症状が表出されることがあります。

赤十字病院では、認知症認定看護師さんを中心となり入院患者さんの認知症予防の取り組みをされています。それに私たちもお手伝いできないかと話し合っていたところ、病院からの依頼もあり、平成27年6月から週1回、午後1時間、患者さんと関わることにしました。場所は、病棟の中にあるデイケア室です。患者さんとその家族の同意、医師の了解、循環動態が安定していること、感染症がないことなど細かい条件をクリアされた患者さんが対象です。ポンベ付きの酸素吸入や点

滴をされている方もおられ、毎回4〜6人の患者さんが参加されます。そこに、毎回違うメニューを企画して下さる担当看護師さん1名、看護助手さん2名、ボランティア2名が関わります。内容は、始めに、今日の年月日、お天気をみんなで確認し、参加者全員の自己紹介をします。これが、それぞれ個性があつて面白く、雰囲気作りや交流になります。次に、緊張を和らげ、体を柔らかくする準備体操をラジカセや看護師さんの声にあわせて行います。そして、大きなテーブル2台を囲み、節分の鬼のお面やカレンダー作り、折り紙、塗り絵、野菜や果物の名前を言い合うしりとりやクイズなどを行います。どれもシンプルで20〜30分集中できる内容です。



やってみよう!

ワンコインでできる!

牛乳パックを使った 一人用非常食セットづくり

大野市赤十字奉仕団(福井県)発案

9月10日から11日に、岐阜県で第3ブロック奉仕団委員長及び担当者会議が開催されました。この会議で紹介された活動をお伝えします。

災害時に簡単に持ち出せるサイズである、牛乳パックで簡単に作れます。

奉仕団の研修会などで、ぜひ挑戦してみてください。

着テープで密閉し、粘着テープにマジックで有効期限を記入する(賞味期限が一番短いものが、その有効期限となる)

(封入例)

- ・高カロリー食品
- ・栄養ドリンク
- ・レトルト食品
- ・スープ・お味噌汁の素
- ・缶詰
- ・ふりかけ
- ・しょうゆ
- ・菓子
- ・おしぼり・つまようじ・割り箸
- ・マスク・ごみ袋・輪ゴム

作り方(一人分)

- ①空の牛乳パック(1ℓ)を一個用意する
- ②注ぎ口側だけを口の字に開く
- ③重いものは下側に、軽いものは上側に詰め込む(小さいものはチャック式のポリ袋に入れてから詰め込む)
- ④側面に、牛乳パックに入れた物の一覧表を貼り付ける(品名とその賞味期限を記載)
- ⑤口の字に開いていた注ぎ口側を粘


